



39

地域の中の学校を実践し、 逞しさを育む学校 大街道小学校

石巻地区最後の登壇となるのは、今年で創立30周年を迎えた大街道小学校です。市の中心部から西側に位置する大街道地区の住宅街にある大街道小学校は、石巻地区では鹿妻小、中里小に次いで新しく、北側には、徒歩で数分の距離に石巻好文館高校があります。

8月1日現在、46人の元気な子ども達が入る学校の校庭には、春に薄紅色の美しい花をつけるバラ科の落葉樹「かいごころ」(昭和57年、校木に制定)が植樹されており、子ども達の成長を見守っています。

大街道小学校では、「地域の中の学校」というキャッチフレーズのもと、地域と協働しながらの取り組みに力をいれており、保護者や地域の方々が学校行事にも積極的に参加します。特にお父さんのお母さん二



▲人気の魚釣りコーナー
(かいどうっこフェスティバルより)

人そろうて参観する姿がよく見られます。また、地域の少年寄りを招いて、給食を一緒に食べながら交流を深めるはなまるランチを開催するなど取り組みもしており、今年も、学区内で支援学校に通っている子ども達も招待する予定で、子ども達も趣向を凝らした招待状の作成に意欲的です。そして、大街道小学校を語る上で忘れてはいけぬのが、かいごころフェスティバルです。5、6年生が中心となり、子ども達自ら企画・運営します。毎年新しい知恵が生まれ、みんなで協力し合い、自らの考えイベントを成功させようとする逞しさは、まさに協働教育を実践してきた成果といえます。先生方をはじめ保護者や地域の皆さんも、その姿を優しく見守り陰で支えます。



▲狙いをさだめて・・・エイッ!
(かいどうっこフェスティバルより)

にぎやか家族 47

南光町



写真左から、智美さん、翔太くん、博之くん

《今(夏休み)がんばりたいこと・将来の夢》

- | | | |
|----|--------------|----------------------|
| 加賀 | ひろ博之くん (14歳) | 駅伝・自動車整備士 |
| | ゆき之みさん (12歳) | 野球(門小ガッツ)・まだ決めていないです |
| | あけみささん (10歳) | 野球(門小ガッツ)・プロ野球選手 |

<お母さんから>

健康でのびのびと育ち、やさしい人になってほしい。

※加賀さんのお宅では、男5人、女3人の8人兄弟です。その中で、今回は下から3人のお子さんを取材しました。「8人そろるととても頼もしいですね」とお母さんが話していました。

今月の表紙から

今回は、8月に行われた「石巻川開き祭り」に華を添えた「ミス川開き」の鈴木さんと今野さんに表紙を飾っていただきました。

ミス川開きコンテスト(主催 石巻青年会議所)は、川開きに最も似合う「水も滴る浴衣美人」が選者のコンセプトで、7月31日(金)の川開き前夜祭会場で公開コンテストが行われました。今年は21人の応募があり、そのうち二次審査を通過した8人が浴衣姿で登場し、自己紹介や石巻への愛着などを審査員にアピールしました。その結果、鈴木さんと今野さんが2009ミス川開きに選ばれました。



写真左から鈴木美奈子さん(駅前北通り)・今野かおりさん(蛇田)

大漁踊りに参加するなど、大忙しの2日間でしたが、いつもさわやかな笑顔で、お祭りに来た皆さんに手を振ったり、一緒に写真を撮るなど、川開き祭りを大いに盛り上げました。鈴木さん、今野さん3日間お疲れ様でした。

サークル仲間

なかま
④⑤

ホタルの光が町の未来を 明るく照らすように

新古里村ほたる会（北上橋浦地区）

今、ホタルをはじめ、もともと地域に

生存するさまざまな生きものが減少しています。新古里村ほたる会は、その生きものが住める環境を整えることが大切と考えたのがきっかけとなり、昨年発足しました。会では、子ども達に自然環境について学習する場を提供し、ジュニア世代や都市生活者との交流を深めながら、食の安全と農業について理解を深めてもらおうと考えています。

現在、会員は48人、地元の方を含め、北上地区以外の方も加入しています。

7月25日(土)、昨年に引き続き曾巴美自然農場の一部を借りて「新古里村ほたるの郷づくり事業」が行われました。不耕

起田の除草作業を

福島県郡山市から

来た30人の小学生が素足になつて行

い、泥の感触を手



▲ほのかな光を放つホタル



▲さあ、これから除草作業です

足で感じながら、自然の大切さを学びました。

夜には、キャンドルで照らされたほたるロードに、小学生や孫を連れたいおじいさんおばあさんなど100人余りの人々が集まりました。

日が暮れた午後7時半ごろからポツポツと光り始めたホタルの光は、あつという間に数え切れないほどの光の空間に変わり、見学者からは歓声が沸き上がっていました。

ホタルを実際に手の上に乗せ興奮気味の子ども達を見ながら「ほのかな、でも力強いそのホタルの光を、子ども達はしっかりと覚えていくれることと思います」と事務所の及川さんは話していました。

長寿のひけつ



③⑦

自分のことは自分で

渡邊 信さん

（桃生地区永井） 89歳

桃生町永井にお住まいの渡邊信さんは、大正9（1920）年に父親の仕事の都合により、仙台市で8人兄弟の長男として生まれました。

宮城県農学校（現・宮城県農業高等学校）を昭和14年に卒業後、桃生町永井に戻り農業に従事していました。昭和17年3月に結婚。翌月には軍より召集があり、現在の北朝鮮の国境警備に3年間就いた後、終戦を迎えました。

終戦後はシベリアに抑留され、昭和22年に復員。昭和23年に、桃生農業協同組合に就職し、昭和52年に定年退職するまで30年間勤務しました。その後、農協理事や保護司、固定資産評価審査委員など、数々の役職を85歳まで務めました。

奥さんは昭和57年に他界され、現在は、息子さん夫婦・孫と4人で暮らし、日ごろは畑仕事や庭の手入れ、友達の家に行ったりしています。地元のお年寄りの方たちと「しのび会」という会



を作り、年5回定期的に集まり、お墓掃除なども行っています。

長寿の秘けつは？と伺ったところ、一つ目は「規律正しい生活に努めること」、二つ目は「自己管理に努めて、自分でできることは自分でやる」、三つ目は「無理のない適度なスポーツなど、体を動かすこと」、四つ目は「定期的に健診を受けること」と答えてくれました。